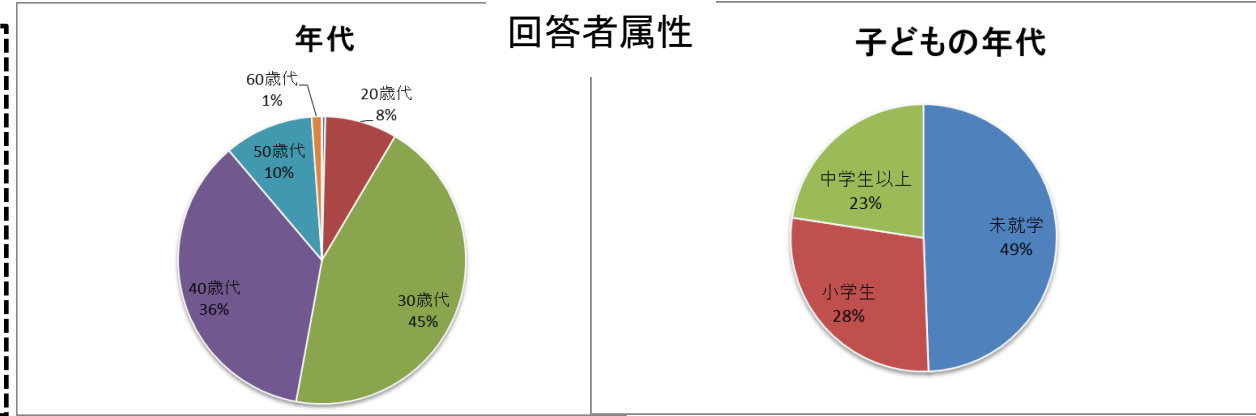


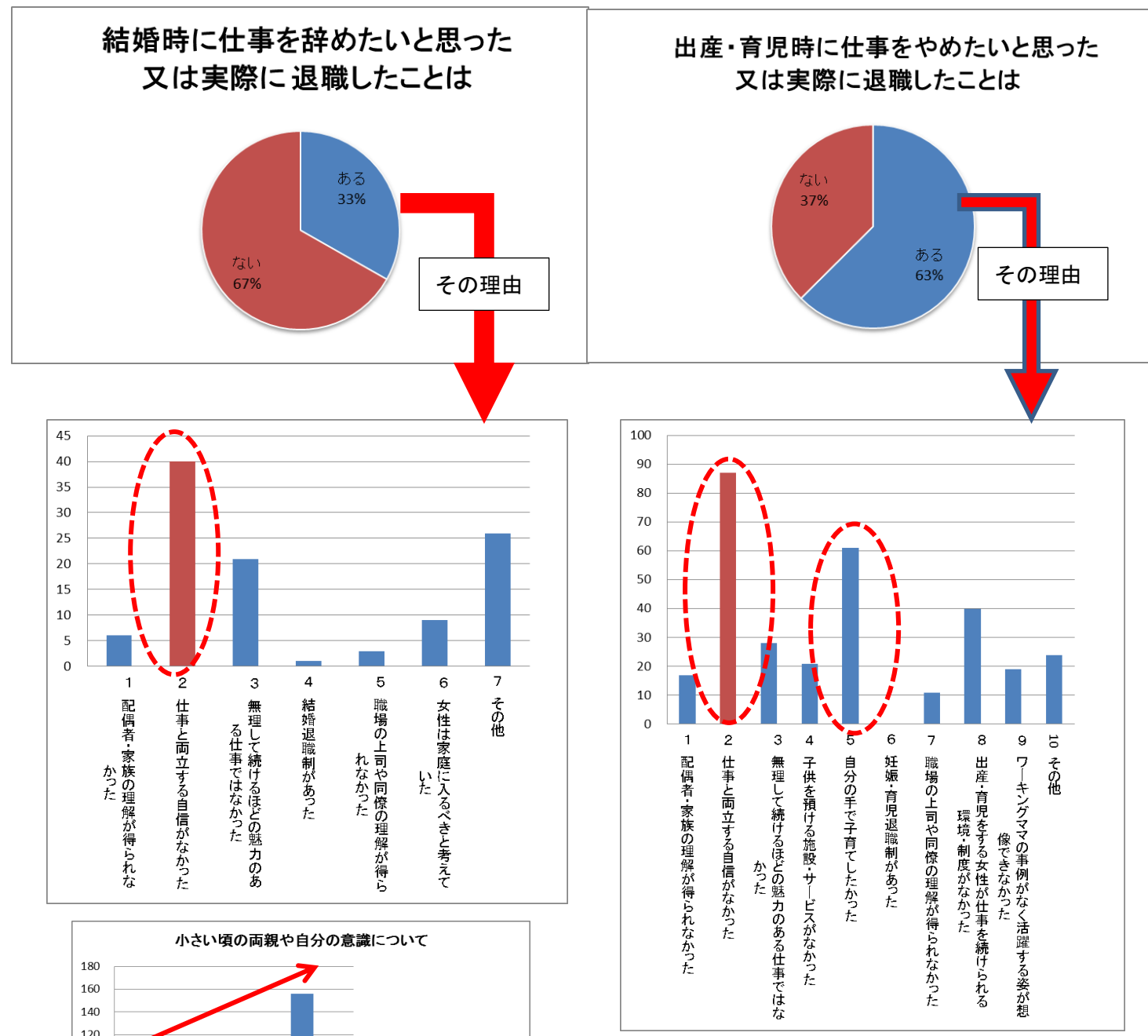
# あいち・ウーマノミクス研究会 女性雇用促進グループ 「ワーキングママの声」調査結果

## 【調査の概要】

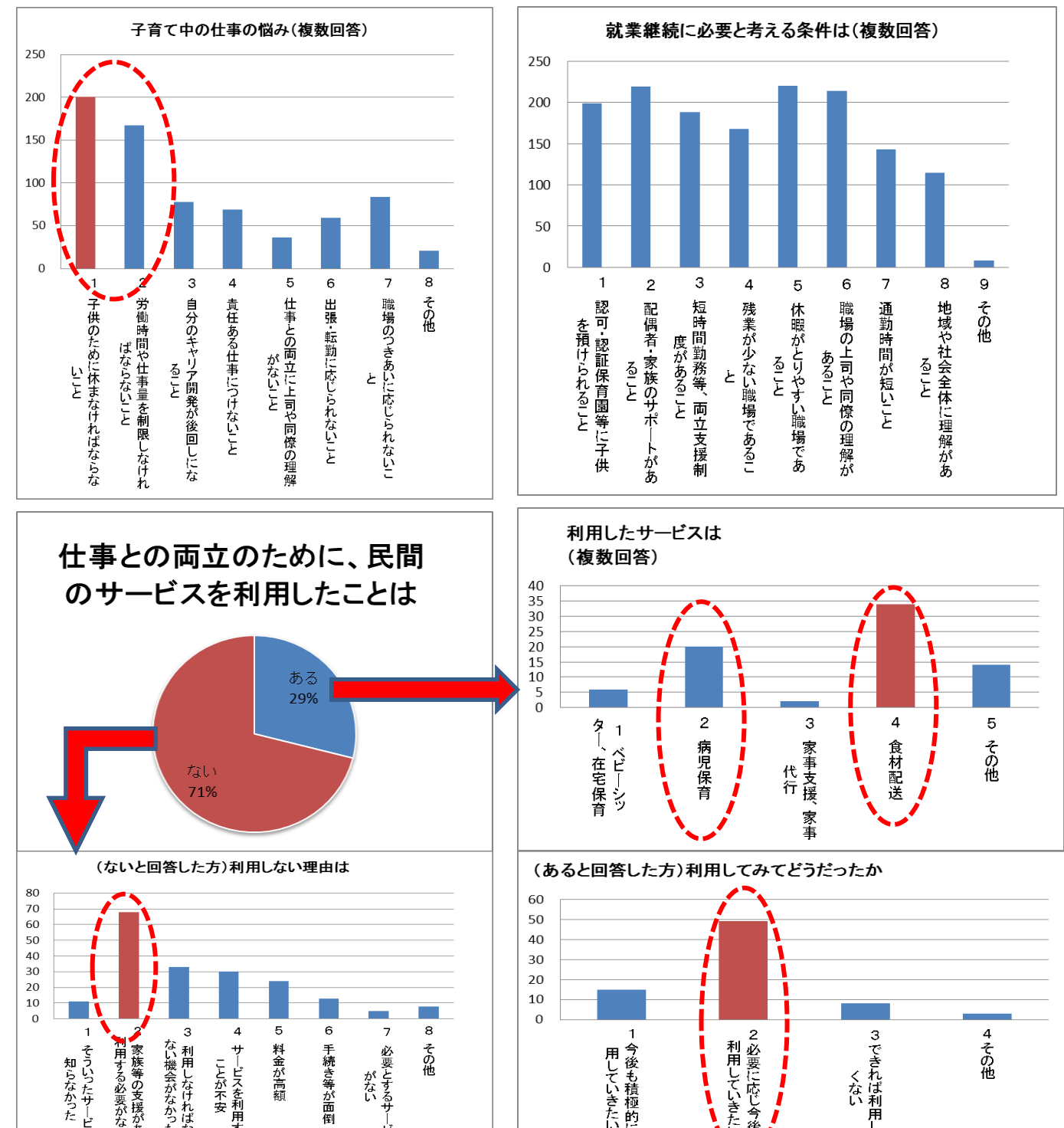
- 調査方法：働く母親を対象に調査票の配付とWEBによりアンケートを実施
- 調査時期：平成 28 年 9～10 月
- 回答数：259 名（正規職員 200 名、非正規職員 59 名（嘱託、パート、アルバイト、派遣））
- 回答者年代：10 代 1 名、20 代 21 名、30 代 114 名、40 代 93 名、50 代 26 名、60 代 3 名
- 子供の年代：未就学 127 名、小学生 72 名、中学生以上 58 名 不明 2 名



## 1 結婚、出産、育児と離職



## 2 子育てと仕事の両立



## あいち・ウーマノミクス研究会 女性雇用促進グループ 「ワーキングママの声」調査結果

### 3 ワーキングママの声

#### 【男性の働き方・育児参加】

- 母親への負担がどんどん増加している。男性陣がもっと子育てに理解を示し協力する体制を作らなければ母親が疲弊していく一方だと思う。
- 女性活躍が推進されているが、社会（男性）の働き方が変わらなければ女性の負担が増えるだけだと思う。
- 男性がメインで育児する仕組みが足りないので、考えてほしい。

#### 【保育・小1の壁】

- 祝日は常に出勤のため、祝日に保育園が休みなのが残念。
- これから子供が小学生になると保育園のように朝早く夜遅くまで預けられないので仕事を続けられるか心配です。
- 事件や事故が多い小学校の教師の対応をきちんとしてほしい（盗撮、体罰、いじめ等）。
- 小学1年生になった時が一番不安。近くに学童がなく、時短勤務も終了するため。
- 結局、病気の子供はどこにも受け入れてもらえない。父親が社会的に育児できるようにしてほしい。なんでもかんでも母親の仕事になっている。
- 病児保育の当日予約枠を設けて欲しい。夜中や朝方に子供の体調が悪くなることが多い。
- 正社員だと、時間制限が多く、子供と接する時間が無く、有給も病気等で、すぐになくなってしまうので、もう少し自由な時間で働けて、休める制度が、幼児の時だけでなく、小学生の内は、欲しい。
- 特に小規模かつ男性の多い会社程、男性の育児休業に対する意識が低く改善する必要がある。
- 長い期間職場から離れると復帰がやはり大変であり、育休期間より、時短勤務期間が長いほうがよい。小学校低学年まで。

#### 【上司・会社の理解、環境づくり】

- 職場の上司が理解ある人でなければ続けられない。実際、子供が体調を崩して休みの連絡を入れてもいやみを言われる。とてもつらい。嫌味を言われても強行して休みが取れるメンタルを持っているなら続けられる。
- なかなか本当にママたちが求める働く環境には進んでいきません。いろいろな働き方があっていいと思います。もっと、選択肢の多い環境、それを受け入れる体制が出来るといいと思います。
- 働き続ける場合、金銭的なサポートが必要。家族の支援が必須となるので、そのサポートも必要。→支援体制を充実させてほしい。
- 女性の社会進出といっても会社の制度があってもそれを利用する環境が整っていない。男性よりも女性からの風当たりが強かったりする。しかし、仕事をやめるわけにはいかないのです。ただひたすらに耐えるのみ。
- 以前の職場が元夫の経営する会社で、モラハラ、マタハラ、DVに悩まされ、仕事を辞めたが今は働きやすい職場で満足している。
- 家庭と子育ての両立には、民間サービスの利用はもちろんのこと、家族や上司の理解が一番必要なことだと思います。

#### 【家事支援】

- 家事支援/代行サービスを利用したいが、料金支出が家計費に見合わないため断念。補助制度があったらいいのにといます。
- 就業継続においては、祖父母の協力が一番大きいウエイトを占めている。

#### 【意識改革・要望】

- いつのまにか植えつけられている良い母親像とのギャップに苦しくなることがあります。働いていても、働いていなくても、子育ては本当に大変だと思います。
- これから社会に出る女性達が育児と両立するために仕事を選ぶのではなく、自分がやりがいを感じる仕事を積極的に選択して欲しい。
- 家事育児をしながら正社員として働くことは絶対に大変だから、それを覚悟したうえで復職することが大切だと思う。会社の待遇等に対して権利だけを主張しすぎないように注意することが必要。
- 県や市でも、子育て支援のサービスの案内をもっと積極的にしてほしい。